

[Heterocycles, 20, 1507 (1983)]

**Concurrent Formation of Two Isomeric Dipyridazino[4, 5-*b*: 4', 5'-*e*]-[1, 4] thiazines Attended with Occurrence of A Unique Dipyridazino-[4, 5-*b*: 4', 5'-*d*] pyrrole**

KENJI KAJI, HIROMU NAGASHIMA, KATSUSHI YAMAGUCHI,  
HIROHISA ODA

**Dipyridazino[4, 5-*b*: 4', 5'-*d*] pyrrole の副成を伴う Dipyridazino-[4, 5-*b*: 4', 5'-*e*]-[1, 4] thiazine の二つの異性体の同時生成反応**

鍛治健司, 長島 弘, 山口勝士, 小田博久

4-Amino-5-mercapto-2-methyl-3(2*H*)-pyridazinone (1) と 4, 5-dichloro-2-methyl-3(2*H*)-pyridazinone (3) を 10% NaOH 水溶液中反応後, 更にベンジル化すると, 10-benzyl-2, 7-dimethyl-10*H*-dipyridazino[4, 5-*b*: 4', 5'-*e*]-[1, 4] thiazine-1, 6(2*H*, 7*H*)-dione (I) とその 2, 8-dimethyl-1, 9-dione 誘導体 (II) が得られた。又, 5-amino-4-mercapto-3(2*H*)-pyridazinone (2) と (3) を同様に反応させると, 前述の (I), 及び今一つ別の異性体である, 3, 7-dimethyl-4, 6-dione 体 (III) が生成した。次に (1) と (3), (2) と (3) の反応を  $K_2CO_3$  存在下 DMF 中  $110^\circ$ , 3h 加熱下を行い, クロマト分離すると, 先の反応と同様に, 前者からは (I) と (II) が, 後者からは (I) と (III) が得られたが, その他に, 9-benzyl-2, 6-dimethyl-9*H*-dipyridazino[4, 5-*b*: 4', 5'-*d*] pyrrole (IV) が新たに得られた。(IV) はスペクトルデータよりその構造が支持されるが, 光反応による別途合成で更に確実にした。(IV) は (I) が脱硫を受けて環縮小して生成したものであるが, その経過についての考察を行った。

[Chem. Lett., 1983, 1601)]

**Enantiospecific Synthesis of Natural (+)-(S, S)-(Cis-6-Methyl-tetrahydropyran-2-yl)acetic Acid, A Constituent of Civet**

YUKIO MASAKI, YUZURU SERIZAWA, KINNOSUKE NAGATA,  
KENJI KAJI

**ジャコウ猫分泌物の一成分である天然の (+)-(S, S)-(Cis-6-Methyl-tetrahydropyran-2-yl)acetic Acid のエナンチオ特異的合成**

正木幸雄, 芹沢 穂, 永田金之助, 鍛治健司

最近我々は (+)-exo-brevicomin の合成において, 酒石酸の持つ  $C_2$ -対称性を有効に利用し, 光学活性な 6, 8-dioxabicyclo[3.2.1]octane 誘導体の合成の新しい方法を開発した。今回, 光学活性出発物質として (+)-(R, R)-酒石酸ジエチルエステル (3) より鍵中間体 6, 8-dioxabicyclo[3.2.1]octane 誘導体 (8) を合成し, その立体特異的還元開環を行い, 題記化合物 (1) のエナンチオ特異的合成を行った。(3) を 4-phenylsulfonyl-2-butanone diethylacetal (4) によりアセタール化し (5) (85%) とし, 次いで  $NaBH_4$  による還元, メシリ化, n-BuLi による分子内アルキル化を行い鍵中間体 (8) を (5) から 63% の収率で得た。(8) の  $Na-EtOH$  (THF) による選択的脱スルホニル化の後,  $LiAlH_4-AlCl_3$  complex ( $Et_2O$ ) により還元開環し, 立体化学的にも単一な 2, 6-cis-disubstituted-tetrahydropyran 誘導体 (10) とした。(10) から側鎖の官能基を効果的に変換し, 目的のカルボン酸 ( $[\alpha]_D +41.2^\circ$ ) (1) に誘導した。